

# 赤水コーナー続々

## 伝記、絵本 偉業知る契機

日本で初めて経緯線のある全国地図を完成させた高萩市出身の学者、長久保赤水(1717~1801年)の関与。本県出身の偉人、赤水を知るきっかけとして、幅広い世代が活用できる内容がそろっている。

### 県内図書館、重文指定受け

高萩市民らでつくる長久保赤水顕彰会(佐川春久会長)が、各市の図書館に書籍を寄贈し、特設コーナーを設置を提案し、動きが広がった。同会は今年、インターネットで資金を募るクラウドファンディングに取り組み、寄付金の使い道として公共施設への書籍寄贈を設定していた。

現在は地元高萩市のほか、北茨城市の図書館に特設コーナーが設けられている。水戸、日立両市の図書館でも、今後作られる予定という。

このうち北茨城市立図書館では、研究者による書籍をはじめ、絵本、書籍集、漫画など、同会が寄贈した18種類の資料のほか、牛久市ゆかりの作家・住井すゑさんによる著作もある。壁には赤水が作成した「改正日本輿地路程全図」(赤水図)のレプリカを貼っている。



北茨城市立図書館の長久保赤水特設コーナー＝同市磯原町本町

**長久保赤水**(ながくほ・せきすい) 江戸中期の地理学者、漢学者。1717年、現在の高萩市赤浜の農家に生まれる。11歳までに両親をなくし、継母に育てられた。35歳ごろから地図に興味を示し、日本各地を旅して地理を学んだ。77年に水戸藩6代

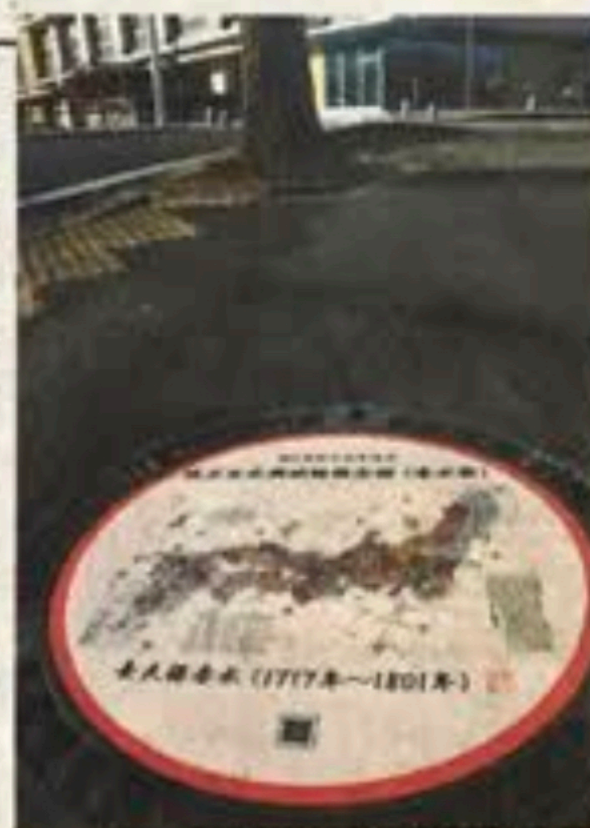
藩主、徳川治保の侍講に登用され、江戸小石川の水戸藩邸で97年まで暮らし、1801年、85歳で没した。1779年に刊行した「改正日本輿地路程全図」は、国防上の機密扱いだった伊能忠敬の地図と違って庶民向けに出回り、海賊版も出版される人気だった。

### マンホールに赤水図

長久保赤水の関係資料が国の重要文化財に指定されたことを記念し、日立・高萩広域下水道組合は、赤水が作成した地図をデザインしたマンホールのふたを高萩市内5カ所に設置した。

ふたには「改正日本輿地路程全図」(赤水図)が描かれ、「国の重要文化財指定」と記載。QRコードをスマートフォンなどで読み取ると、市ホームページにつながり、赤水の生涯や功績に関する情報を閲覧することができる。

ふたは、同市役所交差点▽JR高萩駅東口の国道交差点▽市立松岡小学校前▽穂積家住宅前▽市民球場前の一のそれぞれの歩道に設置している。



長久保赤水が作成した地図がデザインされたマンホールのふた＝高萩市役所前

同館の担当者によると、利用者の反応は良く、貸し出し状況も上々という。赤

水顕彰会の三浦邦明理事は「封建制から自由主義へと向かう歴史の流れや、日本全体を見ていた赤水について知ってもらえれば」と話している。

(小原瑛平)